

2 観光関連データベースの構築・活用

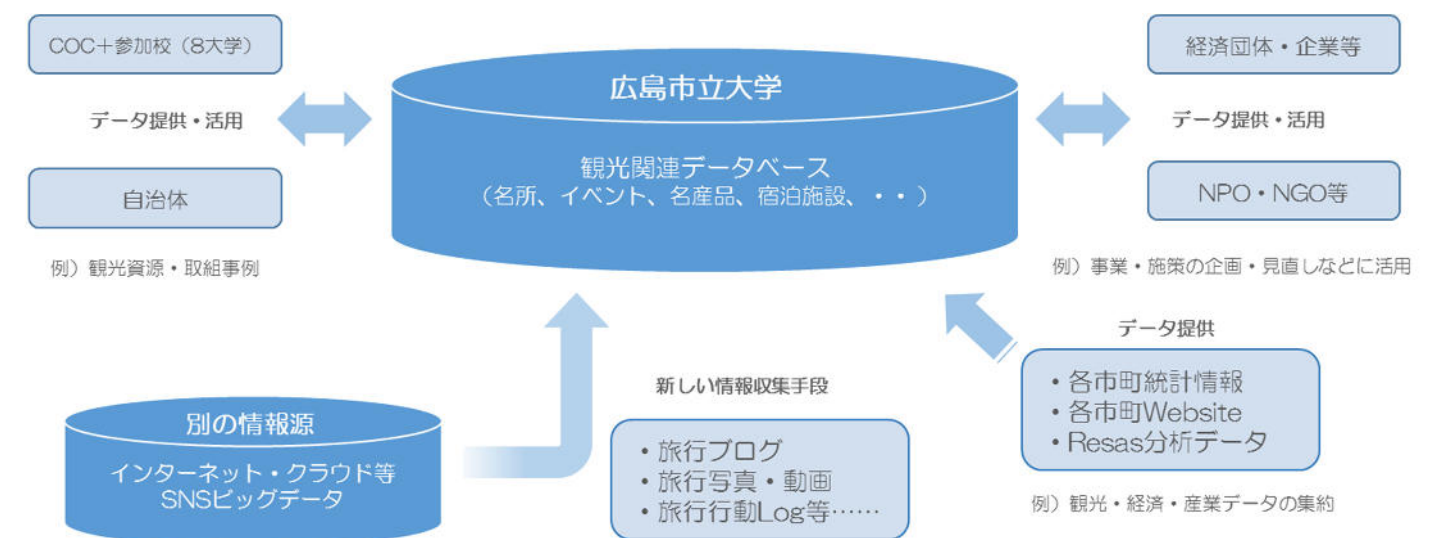
(1) データベース構築の概要

本学 COC+における主要な事業の一つである「観光関連データベース」の構築を進めている。Area25 の地域内の観光施設や観光振興の事例などを収集し、教育研究の素材とするのをはじめ、参加校や自治体、企業に活用していただくことを想定している。コンテンツとして特徴的なのは、観光施設や観光イベント、画像などの一般的なデータのほかに、ブログやツイッターなどの SNS(人々が観光地などを訪れて発信する情報)の集積を行っており、これらの動的な情報の分析によって、新たな知見が得られる可能性もある。

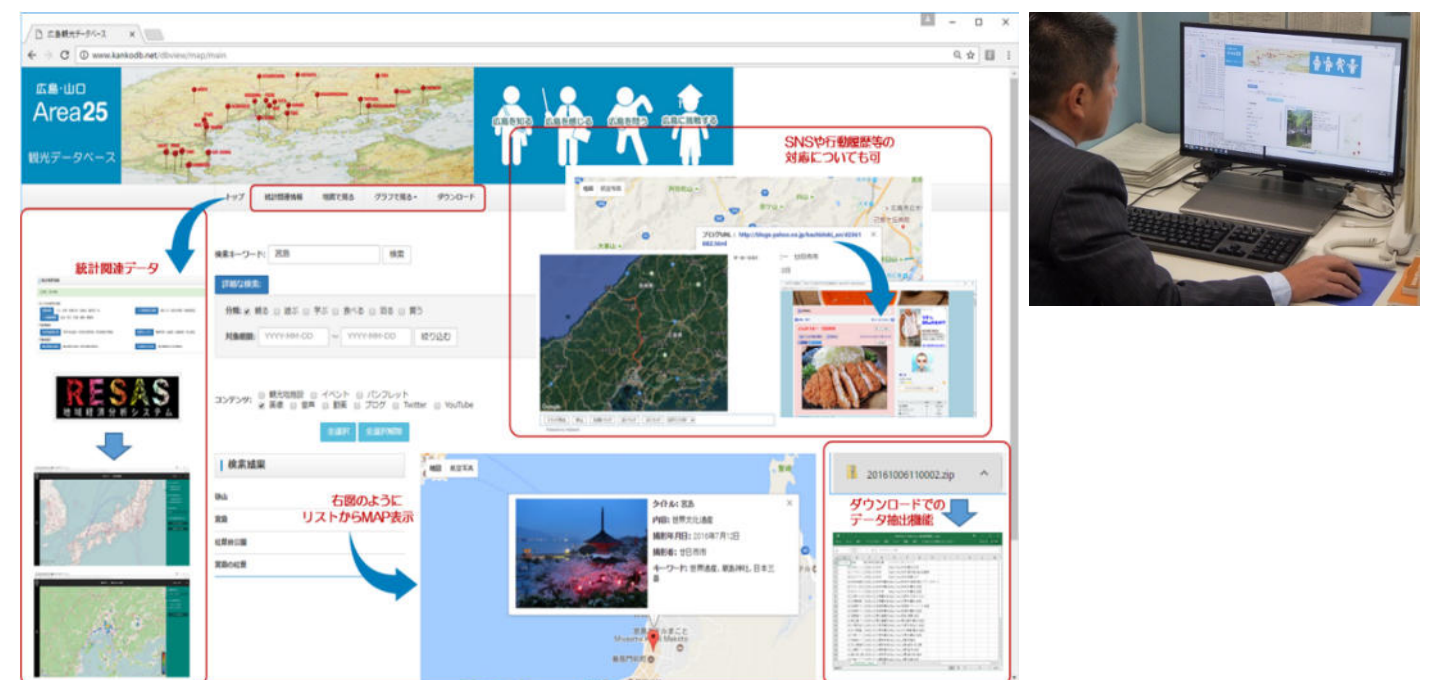
平成 27 年度にデータベース本体の基本システムを作成し、トライアル版による学内でのテスト運用を行いながら、各種データの登録作業を進めている。また、既に他の機関が公表しているデータについても連携して使えるようにリンク先を登録している。

	観光関連データベースの概要
目的	事業協働地域の観光に関連するデータを集め、教育研究活動や自治体・企業にも利用可能なデータベースを構築することを目指している。
特徴	事業協働地域内における観光施設や観光イベント、画像などの一般的なデータのほかに、ブログや Twitter などの SNS 情報(人々が観光地などを訪れて発信)の集積も行っている。
登録コンテンツ 【平成 28 年度登録件数】	<ul style="list-style-type: none"> 観光地施設データ :【約 3500 件】 イベントデータ(一部 Twitter 含む) :【約 3000 件】 パンフレット(紙媒体)/音声/動画データ :【約 500 件】 観光地/イベントの画像データ :【約 3000 件】 SNS 関連データ(ブログ/Twitter/YouTube) :【約 14 万件】 総数:【約 15 万件】
活用	教育研究の素材として課題演習や実践演習、卒業論文・研究・制作等において活用し、さらには、各大学、自治体、企業等における活用も想定。平成 29 年度開講の「地域課題演習」・「観光情報学」の実践的な学習に活用し、順次参加校等大学への活用の呼びかけを行う予定。また、平成 29 年度末には自治体・企業等の関係機関からも閲覧できるようセキュリティーを含めた運用方法等についても調整を行う。

観光関連データベースの概念図



観光関連データベースのイメージ



(2) データベース構築の状況と今後の活用

平成 27 年度はシステムの基本仕様の検討、データベース本体の構築、サンプルデータの登録を行った。平成 28 年度は登録したサンプルデータ等を利用し、データベース本体の稼働・運用試験を行い課題の洗い出しを実施した(5月～7月)。抽出した課題について、改修作業を実施し(8月)、全文検索機能やセキュリティ機能の追加、データ入力の簡易化などの機能拡張(2月、3月)についても行った。データの収集については、参加市町の観光パンフレット類を含む紙媒体の電子データや SNS 情報を含む各種データの入力を進め、平成 28 年度末現在で、約 15 万件の観光関連データの登録が完了している。内訳は、動画やブログ、ツイッターなど SNS 関連データが約 14 万件で本データベースの中核となっているほか、画像やイベントデータ等を含めた観光施設データ等が約 1 万件となっている。

観光関連データベース構築・検討過程

平成 28 年 1 月～2 月：基本仕様の検討・確定

- ・ 第 1 回仕様検討会議実施

3 月～4 月：観光関連データベース本体の構築・納品

- ・ 第 2 回仕様検討会議実施
- ・ 第 3 回仕様検討会議実施

5 月～6 月：一連のサンプルデータによる運用テスト

- ・ 第 1 回 WG 会議実施
- ・ 第 2 回 WG 会議実施

7 月～8 月：一次改修の仕様確定と改修作業

- ・ 第 3 回 WG 会議実施

9 月～11 月：改修後の運用テストと観光データ登録作業

- ・ 執行部向け中間報告会実施

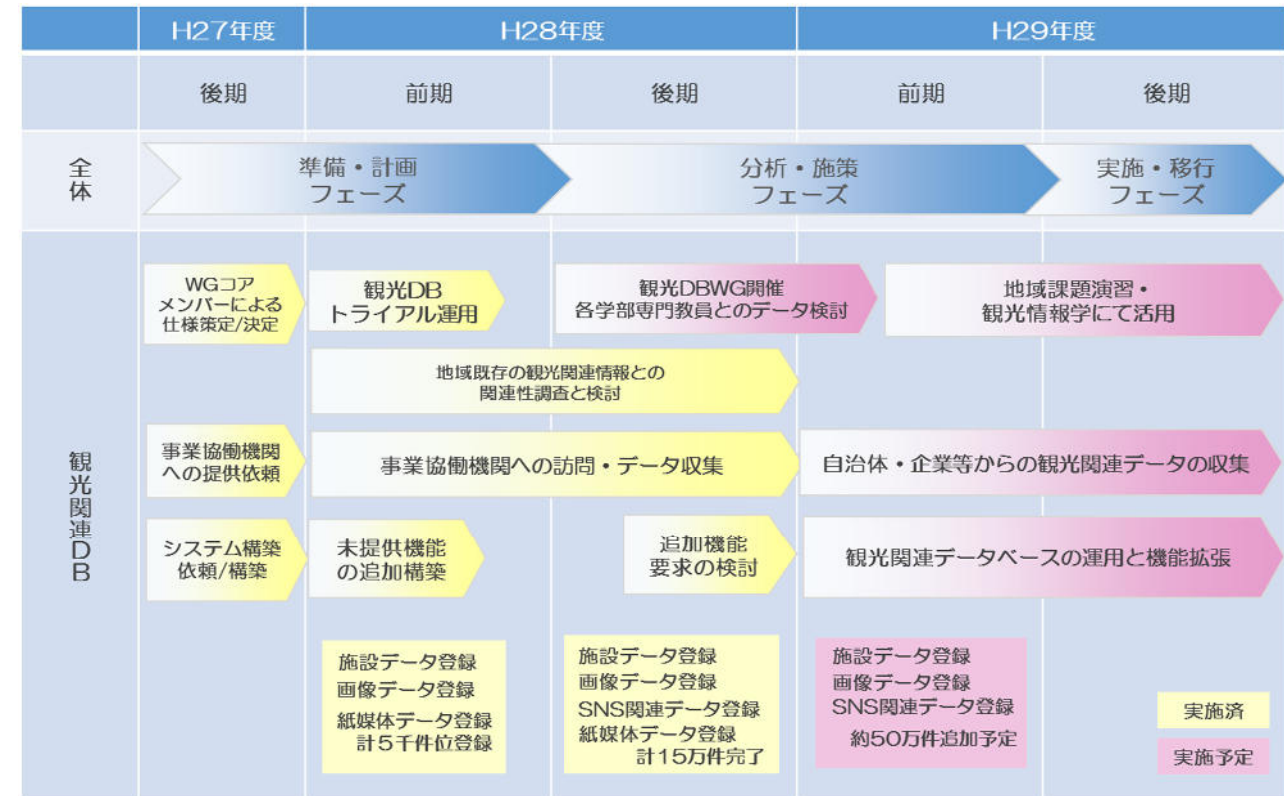
平成 29 年 12 月～1 月：SNS 関連データの登録作業

- ・ 第 4 回 WG 会議実施

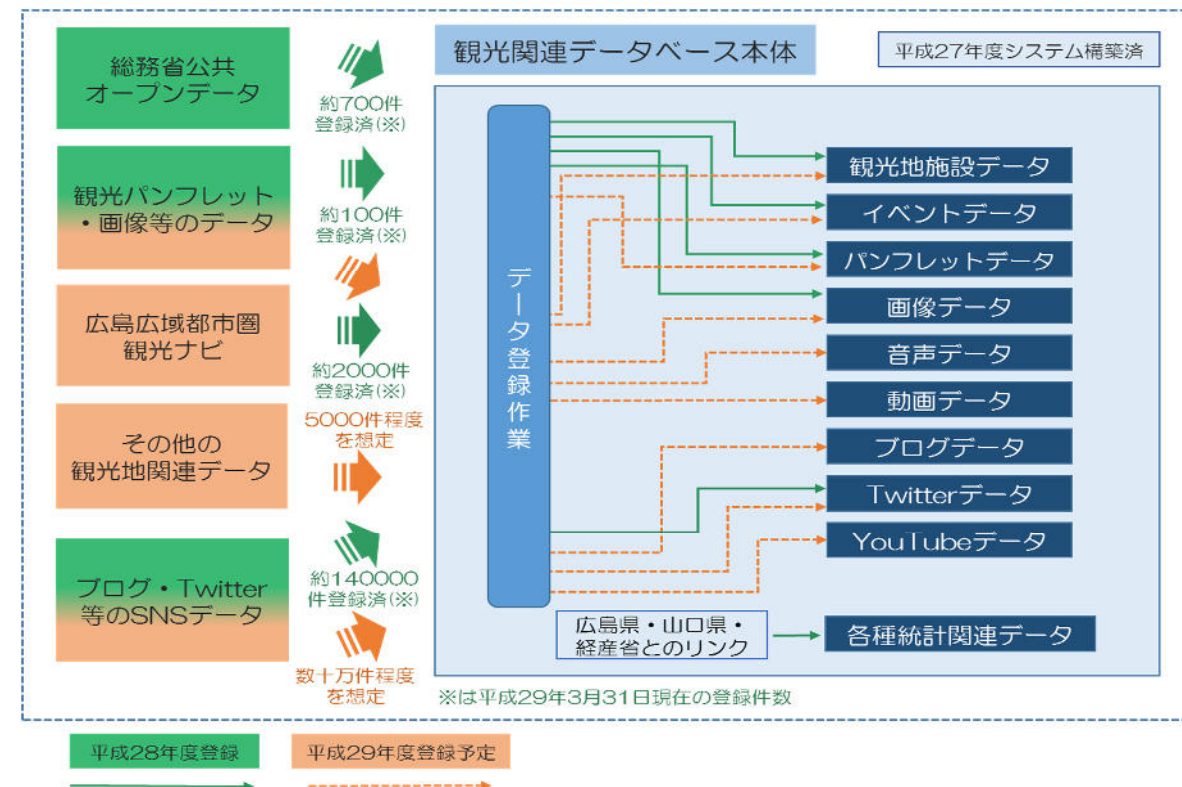
2 月～3 月：二次改修の仕様確定と改修作業

- ・ 第 5 回 WG 会議実施

これらの登録データは、平成 29 年度開講の「地域課題演習」や「観光情報学」への実践的な学習において活用していくこととしている。「観光情報学」については本学と広島経済大学の協力を得て実施するものとなるが、本データベースの活用について順次他大学への呼びかけを行う予定でいる。また、大学以外の事業協働機関からも閲覧できるよう、セキュリティを含めた運用方法等について調整を行っていく予定である。



観光関連データベースの登録状況



3 アートプロジェクト等の教育研究事業の実施

(1) 教育研究事業の展開の概要

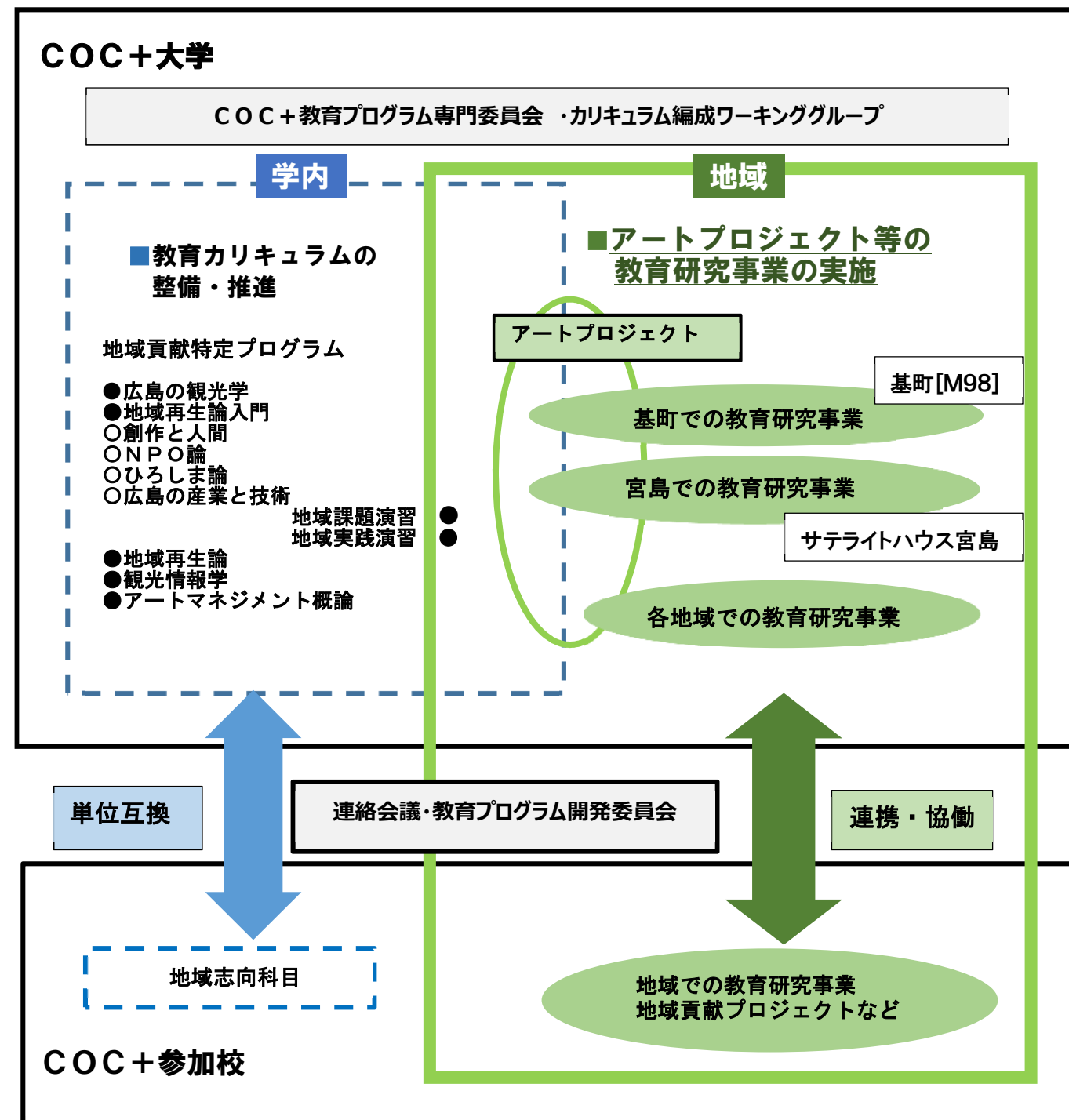
本COC+事業の主たる目的である、地域に貢献する人材の育成にあたり、その柱として、本学の教育カリキュラムの充実と並んで参加校との協働による教育研究事業がある。この両者は学内と地域において重複する部分もあり、その相関を右の概念図に示す。

教育研究事業は「観光振興」をテーマとしながら、これを地域の実情に即して幅広く捉えるなかで(I - 8「観光」のとらえ方)、本学は芸術学部によるアートプロジェクトを主軸とし、参加校はそれぞれの特長や教育方針を活かして、共同または単独で、各地域における活動を展開した。事業の類型は、調査研究、講座セミナー、作品制作など多彩な内容となっている。

■教育研究事業の類型と内容

(類型) 調査研究 演習	(平成 28 年度の事業) <ul style="list-style-type: none"> ■大型クルージング客船の寄港対応と地域経済への影響調査(広島市) [広島大学] ■宮島観光資源の再発見と発信(廿日市市) [広島経済大学] ■COC+特定研究の実施(各地域) [広島市立大学]
講座 セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ■宮島・土曜講座の開催(廿日市市) [広島工業大学] ■囲碁関連科目の創設・公開講座(尾道市) [尾道市立大学] ■サテライト講座の開設準備(柳井市) [広島市立大学]
作品制作・展示 地域デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ■アートプロジェクト(広島市・廿日市市) [広島市立大学] ■アートプロジェクトの 29 年度実施計画の作成 [広島市立大学]
地域支援・ 活性化活動 その他	<ul style="list-style-type: none"> ■基町プロジェクト・もとまちカフェ(広島市) [広島修道大学] ■基町プロジェクト・グローバルキッチンプロジェクト(広島市) [安田女子大学] ■基町プロジェクト全般(広島市) [広島市立大学] ■中山間地域と島しょ部の交流による地域活性化(呉市、東広島市他) [広島国際大学] ■インターンシップの強化 [広島商船高等専門学校] ■社会連携プロジェクト [広島市立大学] ■市大生チャレンジ事業 [広島市立大学]

本COC+事業における教育カリキュラムと教育研究事業の相関図



(2) 活動拠点の整備

地域での教育研究事業を効果的に進めるため、学生や教員の活動の拠点となるスペースを2か所確保し、それぞれ必要な整備を行った。

ひとつは都市部における様々な課題についての学習拠点となる広島市中区の基町プロジェクト「M98」であり、もう一方は著名な観光地であり学習リソースの豊富な廿日市市宮島に開設した「サテライトハウス宮島」である。

基町プロジェクト活動拠点「M98」	
所在地	広島市中区基町 基町市営住宅内
設置時期	平成 26 年5月(平成 28 年度に 2 つのスペースを追加整備)
施設概要	基町住宅地区の商店街の空き店舗をリノベーション。 COC+事業以前に開設していた「M98」(交流オフィス)に加えて、平成 28 年度、新たに「M98<make>」(工房)、「M98<eat>」(キッチン)を、学生の参加により整備した。
活用内容	基町プロジェクトのスタッフ運営スペース。地域住民との会合。工房やキッチンを活用した、地域の活性化や交流活動。COC+参加校との協働事業の展開。

広島市立大学COC+宮島教育研究施設 (通称:サテライトハウス宮島)	
所在地	廿日市市宮島町 672 番地 (旧「因幡邸」)
開設期間	平成 28 年 10 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで
施設概要	宮島における貴重な町家のひとつ。木造切妻造り(一部2階建て)の京都型町家建築で、通り土間や坪庭を有す。空き家であった建物を借り上げ、家財整理や床板等の一部補修を行った。
活用内容	宮島をテーマにした作品制作や展示、講座・セミナーの開催、フィールドワークの拠点としての活用を想定。 (利用者: 本学及びCOC+参加校の教職員・学生)



基町プロジェクト「M98」



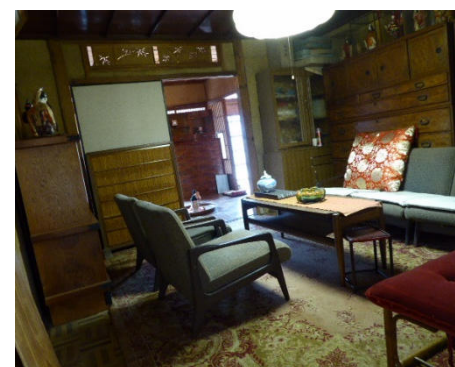
「M98<make>」空き店舗をリノベーションし工房に



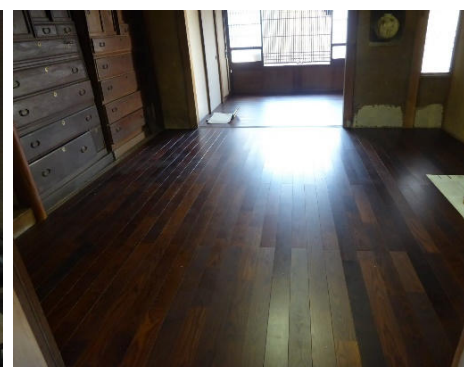
「M98<eat>」学生が参加し
空き店舗をキッチンに改修



資料提供: 広島工業大学



宮島の町家建築の一部を改修



「サテライトハウス宮島」として作品制作・展示・講座の開催などに活用

(3) アートプロジェクトの実施

本COC+事業でのアートプロジェクトは、本学芸術学部が中心となって、事業協働地域の資源や観光のポテンシャルに対して、アートやデザインによる表現力によって、魅力化、活性化、顕在化をもたらすものとなることを目標とする。とくに教育研究事業のプログラムとして行うことから、学生が地域に入って取材、体験、制作を進めるプロセスの中で、作品に込めた思いとともに、自らが地域への発見や気づきを得ることが重要となる。

平成 28 年度は、次のとおり廿日市市宮島及び広島市中心部での活動を実施した。

地域	プロジェクト	実施内容
廿日市市 宮島	版画を用いた宮島観光マップ(宮島双六)の制作と研究	宮島の歴史や伝統文化、地域特性をテーマに魅力資源のリサーチ、宮島観光マップ(宮島双六)制作へ向けた双六様式の調査研究、板目木版画技法の技術習得とサテライトハウス宮島を活用した木版画ワークショップの開催(参加学生8名)
	宮島ものづくり産業復興プロジェクト	宮島伝統産業会館を活用した宮島轆轤の技術習得、宮島の伝統産業のリサーチ、轆轤道具と材料の研究(参加学生6名)
	宮島アーカイブプロジェクト	宮島の伝統産業に関わる職人の技術や歴史等をテーマにしたアーカイブ映像制作と写真記録 宮島轆轤の伝統工芸士藤本悟氏への取材(参加教員2名)
	宮島油絵プロジェクト	宮島をテーマとした絵画制作のための現地調査と作品制作(参加学生22名)
	宮島染織プロジェクト	宮島をテーマとした染織工芸による創作のための現地調査と企画(参加学生18名)
広島市 中心部	基町プロジェクト (コミュニティの再生を目指す地域デザイン活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・「もとまちカフェ」の実施(広島修道大学との協働) ・創作スタジオ「M98<make>」を設置し、未来の基町を考える模型を制作 ・基町の歴史や魅力を紹介する「基町写真展2」を開催 ・シンポジウム「広島基町高層アパートと大高正人」の開催(文化庁共催) ・キッチンスタジオ「M98<eat>」を設置し、グローバルキッチンプロジェクトを月1回開催(安田女子大学との協働)
	観光船と水辺のデザインプロジェクト	新規観光船のデザイン提案や河岸でのイベントの活性化(参加学生5名)



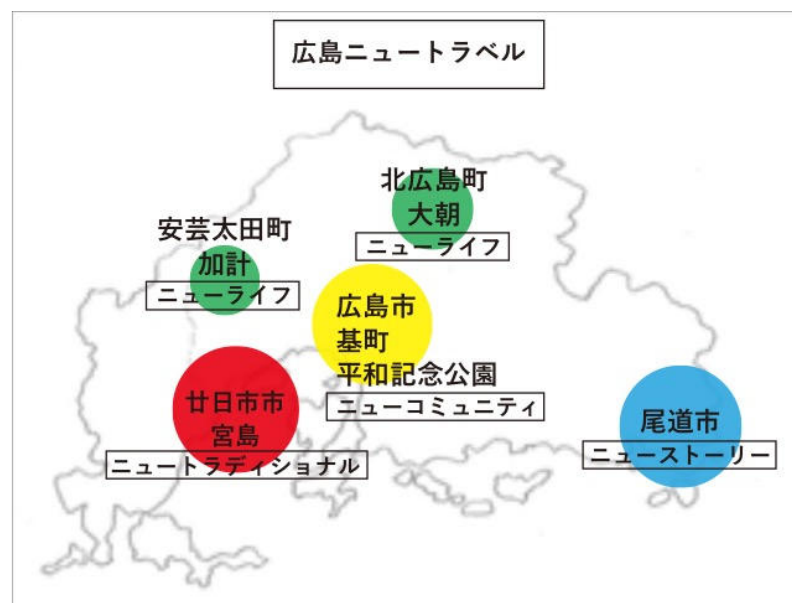
宮島でのアートプロジェクト(現地学習・リサーチ・制作)

(4) アートプロジェクトの平成 29 年度実施計画の作成

アートプロジェクトの平成 29 年度の実施に向けて、実施地域の拡大を検討した。新たな地域として、北広島町大朝(筏津芸術村で彫刻等の創作活動)、安芸太田町加計(製鉄文化をテーマにした作品制作)、尾道市(尾道市立大学との協働による空き家再生プロジェクト等)のプロジェクトを加えるため、現地調査や検討を行った。

計画の内容として、プロジェクトの統一テーマを「広島ニュートラベル」とし、瀬戸内、広島市都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに展開する。芸術学部が参加大学や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施する。

各エリアには、サブテーマとして「ニュートラディショナル」(宮島)、「ニューコミュニティ」(基町、平和記念公園等)、「ニューライフ」(大朝、加計)「ニューストーリー」(尾道)を設定し、全体として5地域 10 のプロジェクトに芸術学部の全 10 専攻の学生・教員が参加する計画とした。



加計・大朝・尾道で新たにアートプロジェクトを行う

地域 「サブテーマ」	プロジェクト	内容 (赤字は新規)
廿日市市 宮島 「ニュー トラディショナル」	宮島双六プロジェクト	・宮島の歴史や伝統文化、地域特性をテーマに板目木版画技法を用いた新しいデザインによる「宮島双六観光マップ」を制作。成果物をサテライトハウス宮島で展示 (油絵専攻/参加学生 8 名)
	宮島ものづくり産業復興プロジェクト	・宮島伝統産業会館を活用した宮島轆轤の技術習得、轆轤道具と材料の研究と作品制作 (漆造形/参加学生 6 名) ・全国の木工轆轤の歴史・特徴・技術・現状から次世代への技術継承をテーマに「広島発轆轤の芸術祭」をサテライトハウス宮島で開催
	宮島染織プロジェクト	・サテライトハウス宮島を活用した世界遺産登録20周年を記念する空間演出として「宮島に平和の明かりを灯そう」をテーマとした染織造形を制作・展示 (染織造形/参加学生 18 名)
広島市 基町 「ニューコミュニティ」	基町プロジェクト	・M98 <join>の設置 (作品展示・交流スペースとして活用) ・オープンミーティングの開催 (毎月第3土曜日に学生や基町地区住民との交流) ・クリエイター・イン・モトマチの実施 (若手クリエイターによる基町住宅地区内のサインデザイン「基町リデザイン」) ・モトマチ・アートウィンドウの開催 ・Mトークの実施 ・「もとまちカフェ」の実施 (広島修道大学との協働) ・創作スタジオ「M98<make>」で、未来の基町を考える模型を制作 ・基町の歴史や魅力を紹介する「基町、昔の写真展」を開催 ・キッチンスタジオ「M98<eat>」で、グローバルキッチンプロジェクトを開催 (安田女子大学との協働)
広島市 市内中心部 「ニューコミュニティ」	観光客に伝えたい新しい広島	広島市外(海外を含む)から広島へ観光に来ようと考えている人々へ、新しい視点でのビジュアルイメージを伝える (視覚造形/参加学生 19 名)
広島市 平和記念公園 「ニューコミュニティ」	広島 ピースプロジェクト	NHK 広島放送局と長崎放送局が 2007 年から毎年放送している特集番組「ヒハグシャからの手紙」をNHK 広島放送局と協働し、8月の放送へ向けた記録映像を学生が主体となって制作 (映像メディア造形参加学生 5 名)
北広島町 大朝 「ニューライフ」	筏津(いかだづ)プロジェクト	・彫刻専攻と立体造形の学生が創作活動スペースの筏津芸術村に滞在し、現地の材料を使って作品を共同制作する ・作品を筏津芸術村等で展示 (彫刻専攻、立体造形/参加学生 20 名)
安芸太田町 加計 「ニューライフ」	たたらプロジェクト	安芸太田町を中心とした地域特有のたたら製鉄文化を学習し、鉄をテーマにした作品制作と展示 (金属造形/参加学生 8 名)
尾道市 「ニューストーリー」	尾道プロジェクト	・尾道市立大学との協働プロジェクトを実施 尾道アーティストインレジデンス (AIR 尾道) に滞在するアーティストの空き家再生プロジェクトに市大生と尾道市大生が協働し、ワークショップや作品制作等を行い、その成果を AIR 尾道の展示スペースで発表 (現代表現/参加学生 11 名)
	日本画 風景プロジェクト	・尾道の風景をテーマに味わいのある街並みや港の風景を取材、日本画制作の基となるスケッチを現地で行い、作品制作。完成後にオープンキャンパス等で展示 (日本画専攻/参加学生 20 名)

(5) 基町プロジェクトの実施

本学が広島市中区役所と協働して設けた教育研究活動拠点「M98」において地域活動を進めている。学生が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じた、まちの魅力づくりや地区の活性化(コミュニティデザイン)に、平成 26 年度から取り組み、平成 28 年度からCOC+の事業(一部はアートプロジェクト)としても実施している。

ここでの活動は、広島市中区役所からの受託研究をベースとしており、高齢化などの地域課題に対して、教員、学生が地域住民と一緒に話し合いながら様々なプロジェクトを進めている。「M98」を拠点としながら、平成 28 年度において、近隣に「M98〈make〉」と「M98〈eat〉」の2つの活動スペースを整備した。

COC+の教育研究事業として、参加校の広島修道大学と「もとまちカフェ」を、安田女子大学と「グローバルキッチンプロジェクト」についてコラボレーションし、学生同士が交流しながら取り組みを進めている。

基町プロジェクトの概要	
目的	若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じた、まちの魅力づくりや基町住宅地区の活性化を進める。 コミュニティの再生を目指す地域デザインの実践による教育研究を行う。
事業者	広島市中区役所・広島市立大学(広島市立大学が研究受託)
経緯	地域の高齢化等の課題に対応するため平成26年度からプロジェクトを開始。 平成 27 年度からCOC+の一環として、参加校と協働して取り組んでいる。
活動施設	教育研究活動拠点「M98」(オフィス) 平成28年度に「M98〈make〉」(工房)、「M98〈eat〉」(キッチン)を整備。いずれも学生、教員等が空き店舗のリノベーションを行った。
主な活動内容 【参加者数】	もとまちカフェ (人々の交流を促し地域の内外を繋ぐ活動 広島修道大学と協働して実施)【281名】 グローバルキッチンプロジェクト (食文化によるワークショップや交流 安田女子大学と協働して実施)【134名】 Mトーク (住民との語りの会やまちづくりについてのレクチャー)【12名】 モトマチ・アートウィンドウ (ショーウィンドウをアート感覚でディスプレイする) 創造・交流拠点づくり (空き店舗を工房やキッチンとしてリノベーションする) 基町、昔の写真展 (写真を軸に歴史トークや地区内ツアーを実施) シンポジウムの開催 (「基町高層アパートと大高正人」)【319名】 基町プロジェクト展の開催 (会場:広島市中央図書館)【1749名】



もとまちカフェ



もとまちカフェ



Mトーク



グローバルキッチンプロジェクト



基町プロジェクト展



シンポジウム「基町高層アパートと大高正人」

(6) 参加校による協働研究事業の実施

参加校による協働研究事業は、COC+事業の趣旨のもと、大学間で一体的な事業として協働することが理想であるが、現実的には、各校の学部構成や教育方針のもとに、可能な範囲で連携しながら事業を進めているという状況にある。

内容としては、観光に関する調査については広島大学、広島経済大学の2校。地域に関する講座の開催が尾道市立大学、広島工業大学の2校。地域活性化に関する活動が広島国際大学、広島修道大学、安田女子大学の3校。学生の地域定着に関する事業が広島商船高等専門学校1校となっている。このうち広島修道大学と安田女子大学の事業は、本学の基町プロジェクトと協働した取組となっている。



広島大学



尾道市立大学



広島経済大学



広島工業大学



広島国際大学



広島修道大学



安田女子大学



広島商船高等専門学校

校名	事業名(テーマ)	実施内容	成果
広島大学	大型クルーズ客船の寄港への対応と地域経済への影響について	広島港五日市岸壁等に寄港する客船の乗客にアンケート調査を行い、滞在中の行動や受入態勢等の評価や課題を把握	広島での調査を2回実施、回答者144人。日帰りツアーや広島訪問の評価、消費金額などのデータを得た。
尾道市立大学	尾道市技「囲碁」関連科目の創設事業	囲碁関連科目を新設し、公開講義として実施。学生と地域関係者の交流を促進	地域に対して囲碁の普及に貢献。学生には尾道の伝統文化への理解を深めた。
広島経済大学	学生による宮島観光資源の再発見と発信	現地調査により宮島の隠れた魅力を学生の目線で発掘し発信する	地元NPOに協力して学生の撮影した写真を展示。フリーペーパーを2000部作成して配布した。
広島工業大学	広島工業大学地域環境宮島学習センター等における「宮島・土曜講座」	「地域保全まちづくり研究センター」の研究成果を核にした、まちづくりに関連した講座を展開	全6回の講座を開催。参加学生の理解が深まり、修士論文、卒論2件の執筆があった。地域のまちづくり保全の気運が高まった。
広島国際大学	中山間地域と島しょ部間の交流による地域活性化プロジェクト	観光まちづくりを支える住民の高齢化に対して、健康づくりをテーマに地域の交流を図る	安芸太田町、東広島市の2地区でサロンを開催。住民の相談や生活課題の調査等を行った。
広島修道大学	基町プロジェクト「もとまちカフェ」への参画	地域イノベーションコースの学生が、基町住宅の住民と来訪者の交流を目指して企画・活動	週1回の定例の企画会議。屋台型こくばんカフェ、コミュニティサロン、もとまちカフェの総活展示等を行った。
安田女子大学	基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」への参画	空き店舗を活用した「食」関連イベントへの参加により、交流の場をつくる	管理栄養学科の学生15名が「減塩食」をテーマに料理試食会を実施し、地域の反応や状況を知ることができた。
広島商船高等専門学校	企業研究会	学生の就職活動にあたってのガイダンスと県内企業を中心にしたブースでの個別懇談	参加学生は90名。平成28年度卒業生の自県内就職率は59.1%で、前年度に比べて6.9ポイント上昇した。

(7) 大学連携による観光に関する研究・活動発表会の実施準備

学生の観光に関わる研究・学習能力の向上と、それを通じた地域志向マインドの醸成や教育研究者の情報共有・交流を目的として、平成 29 年度に行う参加大学等との連携により学生の観光に関する研究・活動発表会を企画し、COC+参加校等に参加呼びかけを行った。

プログラムとしては、研究・活動発表をはじめ、広島の実資源体験、現地研修から構成されることを想定した。

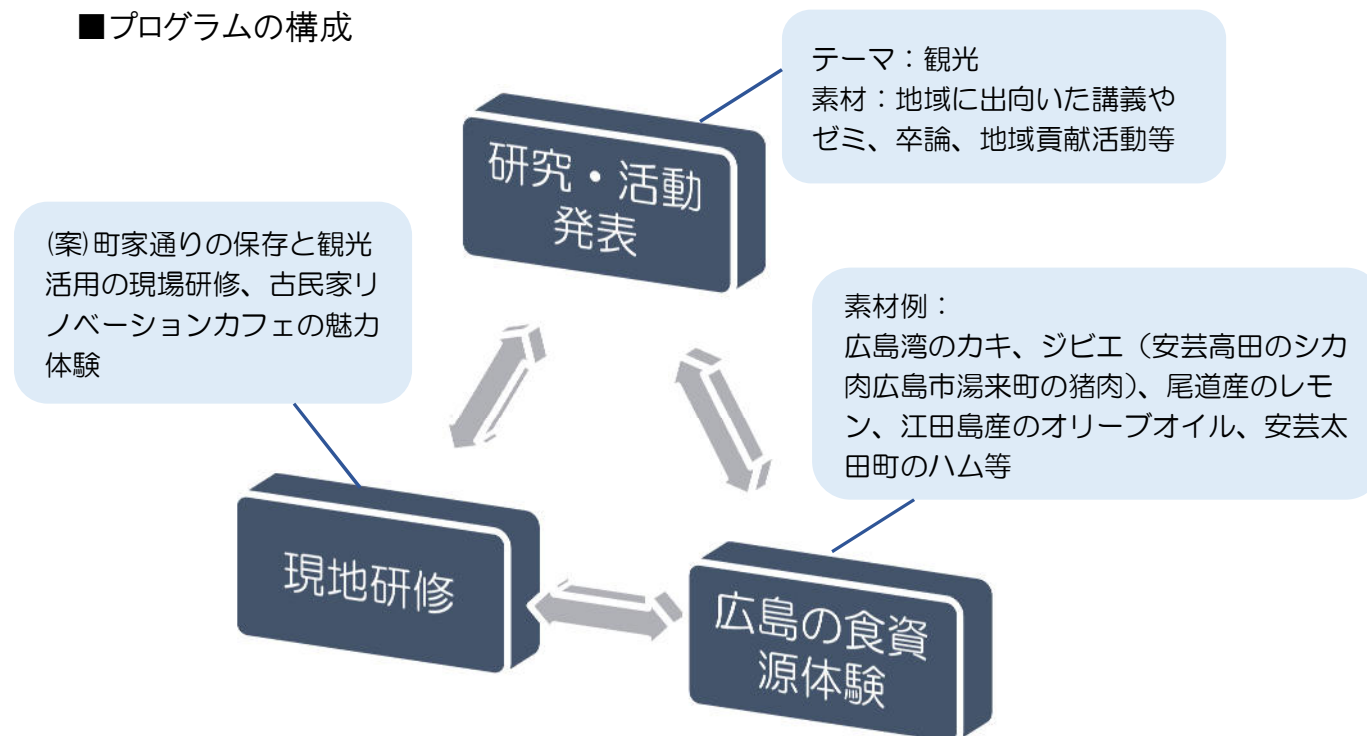
＜相互研鑽により向上が期待される学生の能力＞

- ・地域との関わり方
- ・分析や考察の方法
- ・提案内容
- ・プレゼンテーションの仕方等

■ 大学連携による観光に関する研究・活動発表会

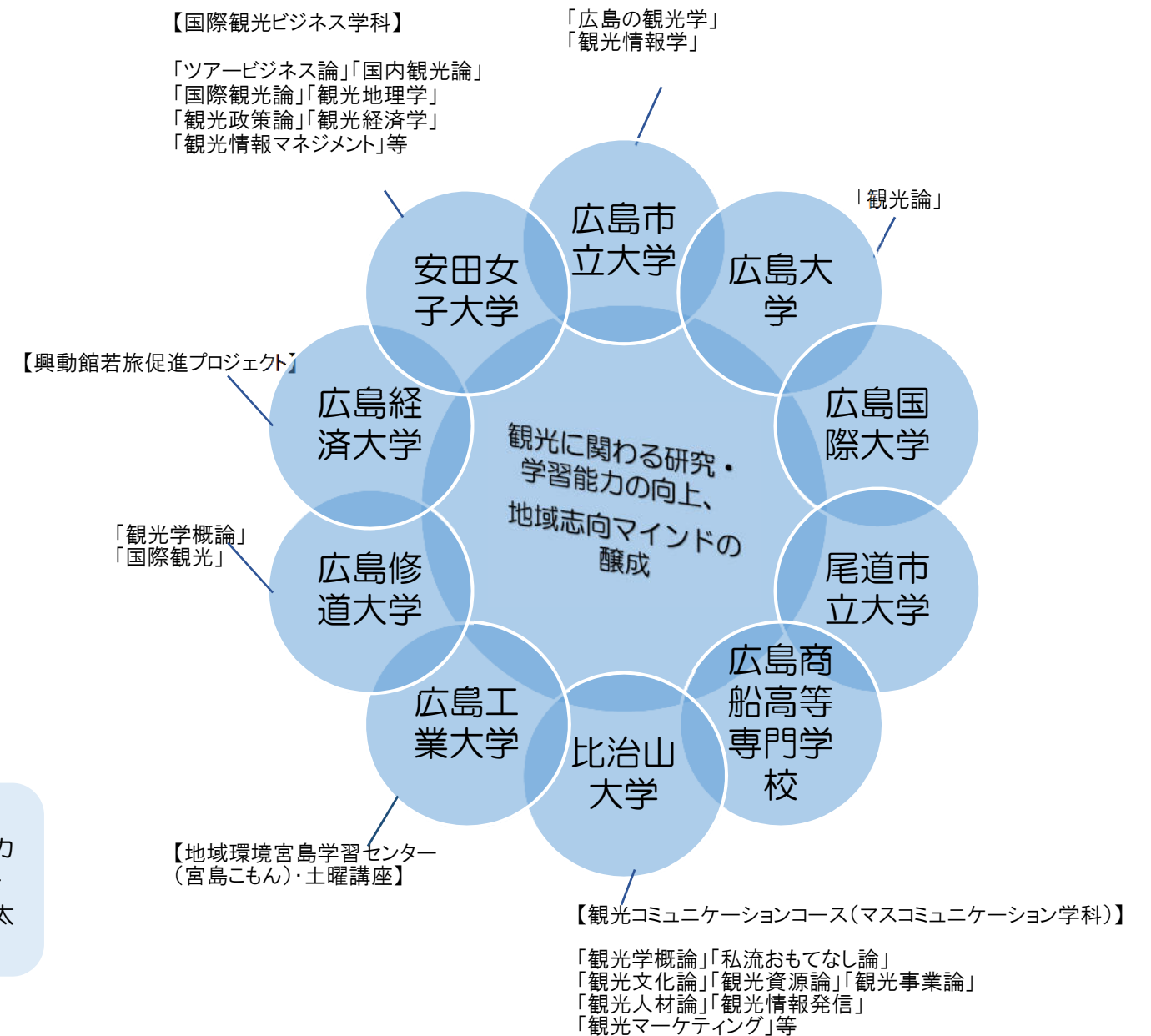
- 開催日 平成 29 年 12 月 16 日(土)～17 日(日) 1泊2日
- 会場 広島経済大学成風館(廿日市市宮島町) (予定)

■ プログラムの構成



(注)詳細については今後関係教員間で検討

大学連携による実施体制(イメージ)



(注 1)講義名(学部対象)は一部を掲載
 (注 2)COC+参加校の他、観光関係の講義を数多く有する比治山大学へ参加を呼び掛けた今後呼びかけを拡大することも検討

(8) COC+特定研究等の実施

■ 特定研究・社会連携プロジェクト

本学の学内競争的研究資金として、平成28年度から新たに、特定研究にCOC+研究費を設け、社会連携プロジェクトにCOC+関連事業経費を追加した。学内公募を行い、次の8件の研究テーマを採択し、実施した。

区分	研究テーマ	実施内容	代表教員
特定研究費 COC+研究費	COC+事業における先導的アートプロジェクトの実施と人材育成のための基盤研究	アートプロジェクトを通じて学生が地域の特性や資源に対して創造的アプローチを行う	社会連携センター 三上賢治 特任助教
	瀬戸内の観光振興と外国人観光客のインバウンドを目指した地域活性化プロジェクト	瀬戸内の観光・特産品の情報発信、隠れたスポットの発掘、特産品のブランディングを行う	国際学部 山口光明 教授
	広島における体験型スポットの自動検出	ブログなどの大量の観光関連文書を、自然言語処理技術を用いて解析し、体験型スポットを自動検出する	情報科学研究科 難波英嗣 准教授
社会連携 プロジェクト費 COC+関連	広島広域都市圏の鳥瞰図の制作	圏域を瀬戸内海側と中国山地側から俯瞰した2点のグラフィックを制作	芸術学部 笠原浩 教授
	グローバルキッチンプロジェクト	食に関するイベントの開催により、コミュニティの活性化や地域交流を行う	社会連携センター 三上賢治 特任助教
	宮島でのテーマ制作と展覧会	芸術学部の油絵専攻の学生が宮島の歴史等を学習し、地域での制作活動を体験する	芸術学部 志水児王 准教授
	基町での学生と共にを行う地域の歴史デジタルアーカイブ化研究	地域の写真を基に、撮影された情報の収集、地域のドローン撮影、展示会など	芸術学部 南昌伸 教授
	厳島八景に関する教育事業	八景の成立の歴史を学び、現地を巡り、地域文化への理解を深め、マップ制作と連携する	国際学部 城市真理子 准教授



宮島での現地学習



基町でのデジタルアーカイブ作業

■ 市大生チャレンジ事業

学生が自ら選択した課題や、地域から提案されたテーマに基づき実施する、社会貢献活動を支援するための制度である「市大生チャレンジ事業」について、平成28年度は次の4件をCOC+に関連する地域活動として採択し、実施した。

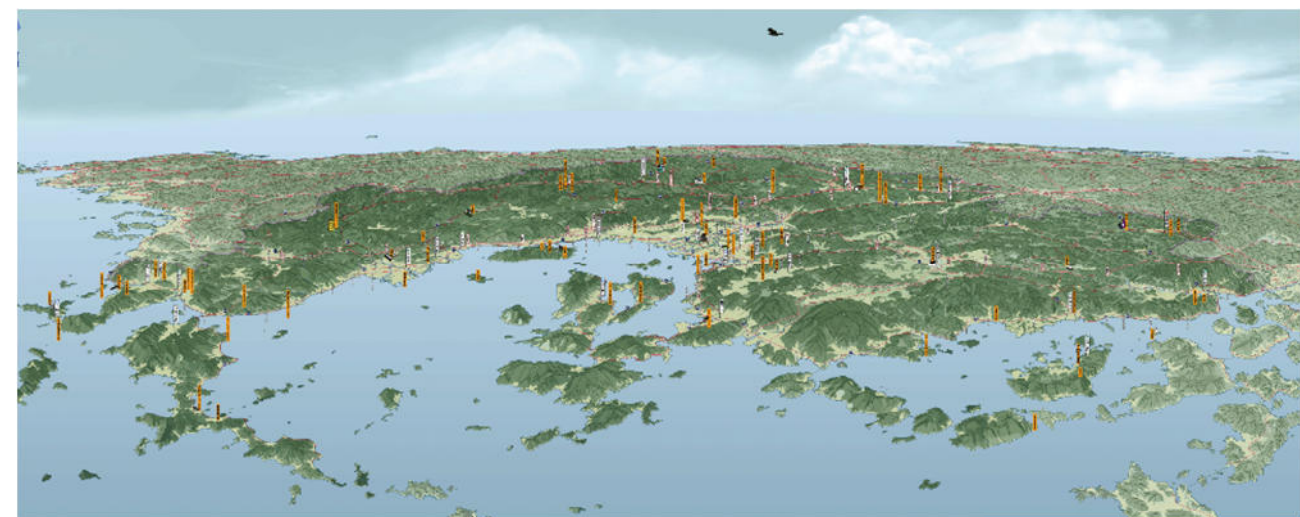
区分	活動テーマ	実施内容	参加学生
市大生 チャレンジ事業	伝統的板目版画技法による宮島観光マップ制作のための調査	宮島を題材にした版画双六マップ制作のための技法調査	3名
	地域交流と社会貢献を兼ねたランドアートプロジェクト	地域の課題である竹林整備をアートとして活性化する環境活動	32名
	地域商店街活性化への貢献	横川商店街劇場のイベント運営、映像作品展など	8名
	広島ピースキャンプ2016	8月6日に来広する観光客へのキャンプ提供、文化体験の運営など	11名



竹林でのアート・環境活動



商店街でのイベント運営



広島広域都市圏の鳥瞰図

4 インターンシップの強化

(1) インターンシップの参加状況

インターンシップは、キャリア教育の中で重要な役割を担っていると言われながら、キャリア形成を図る教育プログラムであるというより、就職活動・求職活動の一環であるとみられる傾向がある。

こうした各人が抱くインターンシップに対する考えはともかく、本学COC+では、インターンシップは学生を地元企業に結び付ける格好の機会であると認識し、地元企業の実施するインターンシップへの学生の参加を促進している。

■キャリアセンター仲介のインターンシップの参加状況

平成 28 年度、本学キャリアセンターが仲介して実施するインターンシップについて、学生の受け入れの申し込みのあった企業数は、103 社・団体であり、このうち44社・団体に対して、63 名が参加した。

■広島市有給長期インターンシップの参加状況

広島市が実施する市内大学の学生を対象に実施する有給長期インターンシップに。平成 28 年度は、本学から3名が参加した。(このインターンシップには、広島大学、県立広島大学、広島市立大学、広島工業大学、広島修道大学、広島女学院大学、安田女子大学から計 21 名が参加)

■その他のインターンシップの参加状況

上記以外に、広島県インターンシップ促進協議会等が実施するインターンシップ、在日米国総領事館等に4名が参加した。

■学生のキャリア形成支援

学生の地元企業への興味を喚起し、地元企業におけるインターンシップへの参加を促進するため、インターンシップ参加者による報告会や地元企業に就職したOBOGの体験談を聞く会、OBOGと在校生の交流会の開催、地元企業等に対する本学の教育研究活動等の成果の説明会を開催している。

受入れ	平成 27 年度	平成 28 年度
企業等インターンシップ 受け入れ企業数	84 社・団体 (58)	103 社・団体 (70)

学生の参加	平成 27 年度	平成 28 年度
企業等インターンシップ	42 名 (39)	63 名 (47)
広島市有給長期 インターンシップ	5 名 (5)	3 名 (3)
広島県インターンシップ 促進協議会	2 名 (0)	1 名 (0)
その他のインターンシップ	6 名 (0)	3 名 (0)
合計	55 名 (44)	70 名 (50)

(注)()書きは、COC+協働機関におけるインターンシップ参加者数で内数。

上表は、リクルート(リクナビ)やディスコ(キャリアタス)等が情報提供し、学生が本学キャリアセンターの仲介を得ることなく、企業に直接申し込んで実施するインターンシップの参加者数を含んでいない。



インターンシップ報告会



企業関係者に研究成果を説明する学生



OBOG交流会



OBOG体験談報告会

(2) インターンシップの強化に向けた検討

■COC+就職・インターンシップ担当ワーキングにおける検討

国立大学は、学生の就職活動の面でこれまで比較的恵まれてきたことから、私立大学と比べ、大学による学生のキャリア形成・就職活動の支援が手薄い状況にある。

こうしたことを踏まえ、本学COC+では、学生に地元企業への興味・関心を持ってもらうことによって、地元企業への就職に結びつくことを期待して、学生のキャリア形成の支援の充実を図りながら、地元企業へのインターンシップの参加者の増加を図るための取り組みを進めることにしている。

COC+就職・インターンシップ担当ワーキングでは、どのようにして地元企業が実施するインターンシップに対して学生の参加を促すかという視点から、地元企業の紹介方法の改善や進路指導の充実等について検討している。

■COC+参加機関とのインターンシップ充実に向けた検討

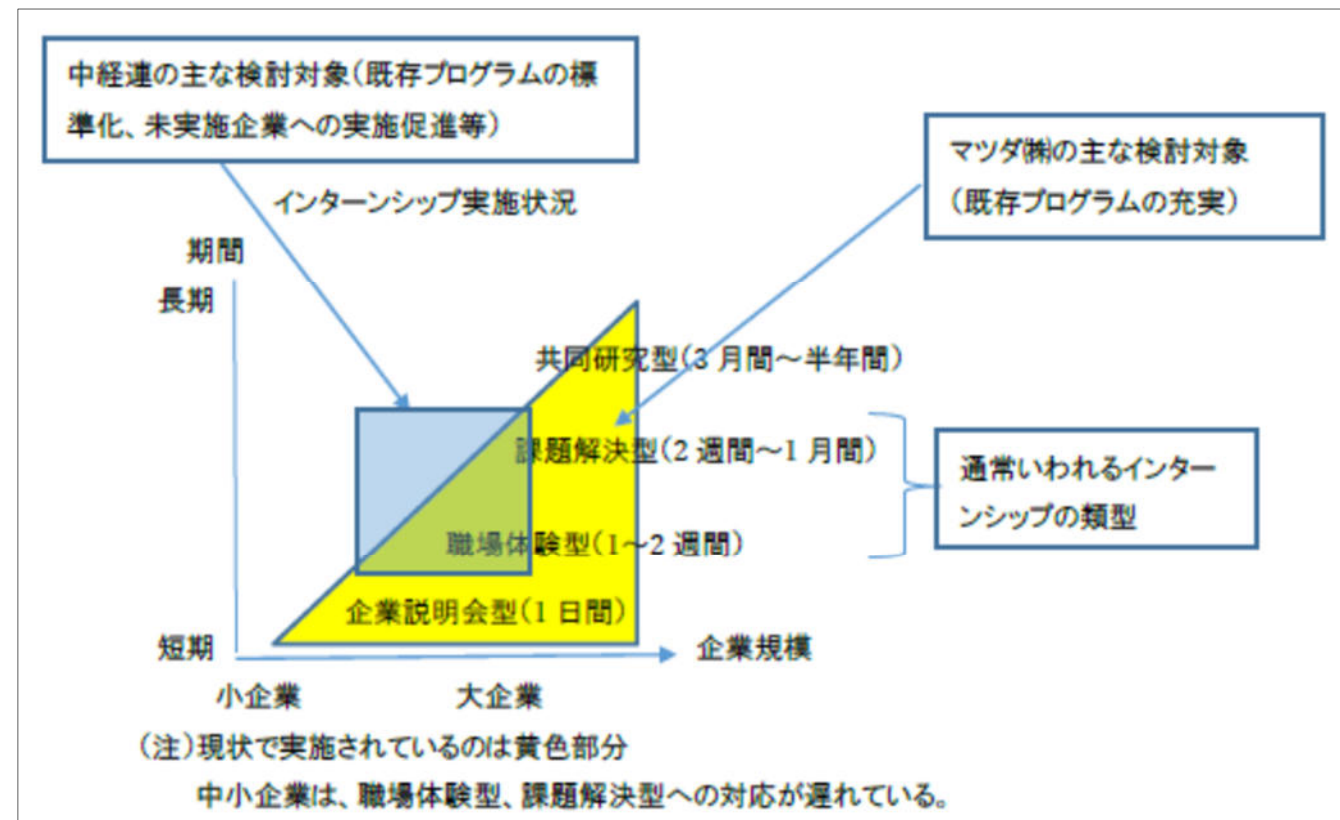
地元企業が実施するインターンシップの充実を促進するため、参加機関が主体となって実施するインターンシップの検討会に参加し、協議・検討を進めている。

中国経済連合会では、ものづくり産業を支える高度な技術・技能を有する人材などの育成確保を支援することを目的として、平成 28 年 11 月、人材専門育成部会を設置し、インターンシップのモデルカリキュラムや中小企業におけるインターンシップの実施促進方策を検討している。本学は、人材育成部会の中のインターンシップをテーマとする第1分科会に参加している。(部会長:諏訪正照(株)熊平製作所社長、中国経済産業局、広島県、マツダ(株)、広島大学、県立広島大学、広島市立大学、広島経済大学、安田女子大学等が参加。平成 28 年度は、全体会議2回、第1分科会2回開催)

マツダ(株)では、イノベティブ人材育成の一環としてインターンシップの充実を図るとともに、各大学でのキャリア教育の強化を目指し、地元の受け入れ対象大学等と定期的に合同意見交換会を開催することとし、本学もこれに参加している。第1回は平成 29 年2月開催。(マツダ(株)の主催により、広島大学、県立広島大学、広島市立大学、広島工業大学、安田女子大学、呉工業高等専門学校が参加)

本学のキャリア形成科目と関連施策

	1年次		2年次		3年次	4年次
	前	後	前	後		
就職活動の流れ					自己分析・自己PR準備 マナーの習得 業界・企業・職種研究	エントリーシート 履歴書の提出 会社説明会・訪問 筆記試験・面接対策
通全 科学 目共	広島の産業と技術 情報と企業		キャリア デザイン (選択科目)		キャリアサポートベーシック (自由科目)	
国際 専 門 教 育 科 目	企業インターンシップ(～4年次), 学校インターンシップ(～4年次)				卒業論文	
芸術					企業活動とプロジェクトマネジメント 臨床情報医工学プログラム医療系実習 インターンシップ	卒業研究
形成 支援 (正課外)					進路説明会 就職ガイダンス 就職支援セミナー 業界・企業研究 学内合同企業説明会など	模擬面接・履歴書添削 就職支援セミナー 学内合同企業説明会
	インターンシップ 有給長期インターンシップなど					



5 事業運営等

(1) 事業協働協議会の開催

COC+事業協働協議会(「観光振興による地域創生に向けた人材育成事業協働協議会」)を、平成29年1月24日に広島国際会議場で開催した。

協議内容は、平成 28 年度事業の実施状況、平成 29 年度の事業計画案、平成 27 年度の外部評価結果の報告であり、事業の進捗状況と今後の展開等について情報を共有し意見の交換を行った。参加は 37 の事業協働機関から 65 名であった。



事業協働協議会

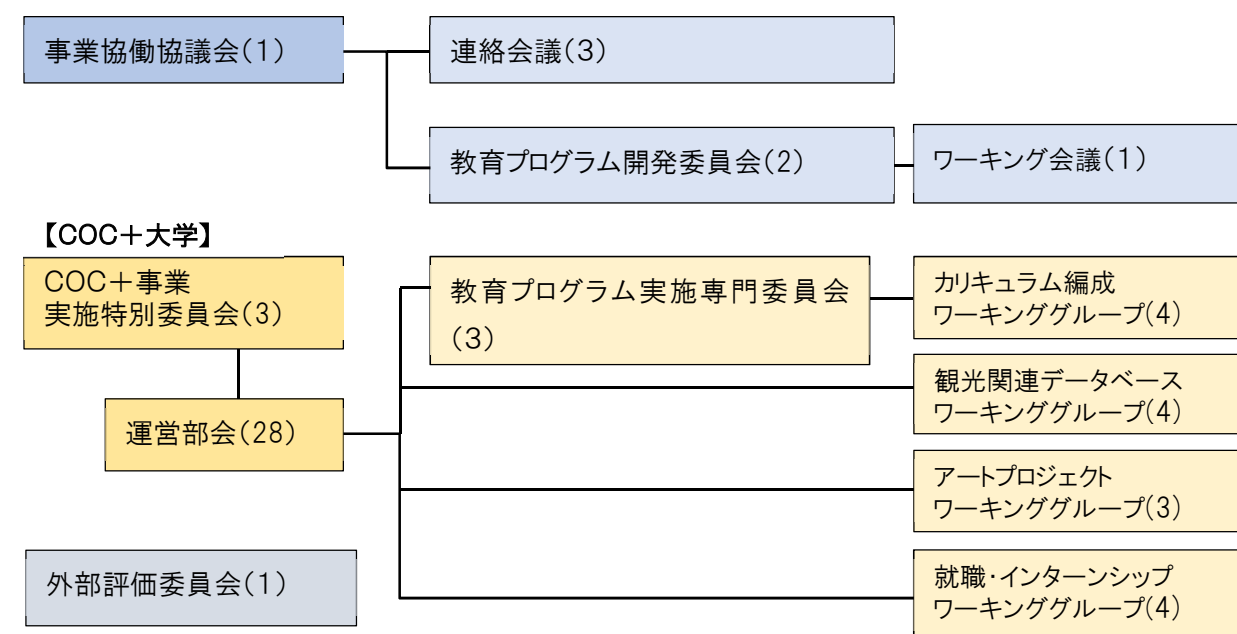


(2) 推進組織の運営

COC+事業協働協議会及びCOC+大学内の推進組織の運営状況は右図のとおり。()内の数字は開催回数を示している。それぞれの会議の協議内容等については、「関係資料」に記載した。

また、事業を推進する担当教員を、平成 28 年 4 月に特任教授2名(事業協働地域調整担当、教育研究担当)、特任准教授1名(事業協働地域調整担当)、8月に特任助教1名(教育研究担当)を雇用した。平成27年度に雇用した特任助教2名(観光関連データベース担当、アートプロジェクト担当)と合わせて、6名の体制とした。

委員会等の実施状況 ()は H28 年度開催回数



[Ⅱ 平成 28 年度の実施状況] 5 事業運営等

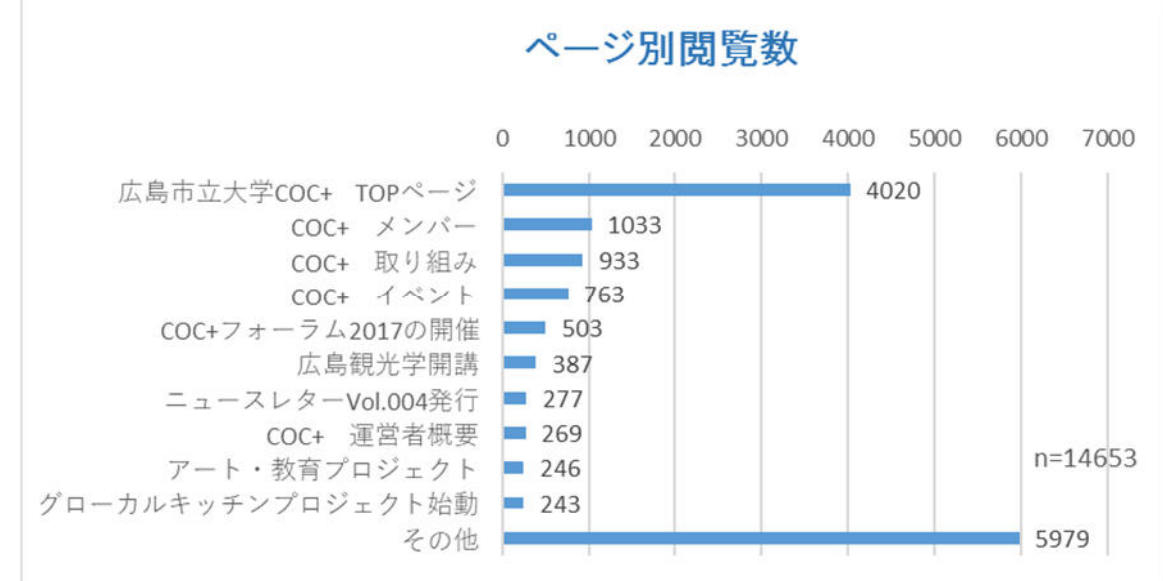
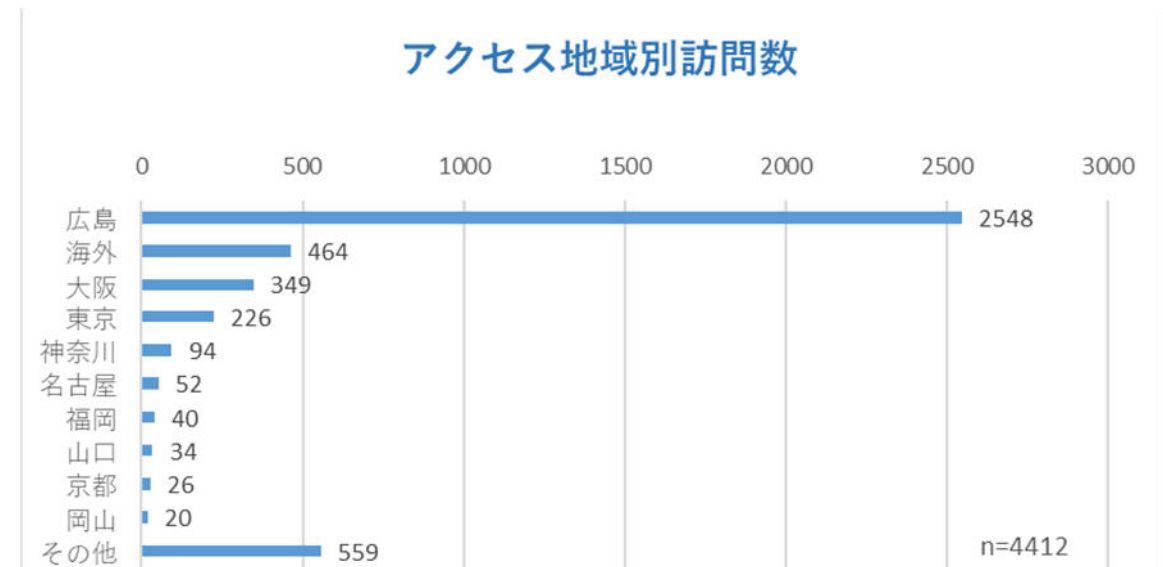
(3) 広報活動

事業協働地域内外に情報提供を行うため、COC+ニュースレターの発行、COC+ホームページによる情報発信、各事業やイベントのプレスリリースやチラシ等の印刷物の配布を行った。

COC+ニュースレターは3回発行(A4版4ページ、各3,000部)し、事業協働機関等に送付した。

COC+ホームページによる発信は、平成28年6月から開始した。平成28年度の総閲覧数(10か月)は14,653件であった。

COC+ニュースレターの掲載内容		
通巻第3号	2016年7月	COC+ホームページの紹介 Area25の全ての市町を訪ね最新の観光施策の動向を調査 「地元で育てた人材を大切にしたい」森信秀樹氏 「観光」の範囲、宮島をCOC+教育プログラムの拠点に ほか
第4号	2017年1月	体験を重ね地域志向マインドを育む 基町プロジェクト「M98」、宮島にCOC+活動拠点を開設 観光関連データベース、情報の集積を進めています フォーラム2017を開催 ほか
第5号	2017年3月	地域をキャンパスに、観光地や中山間地などを訪ねる 地域課題演習の10テーマ 「地域貢献特定プログラム」の科目を充実 地域志向科目の単位互換を開始 ほか

Ⅲ COC+事業の共通成果に対する事業目標と進捗状況

■地(知)の拠点大学による地方創生推進事業における共通成果に対する事業目標値

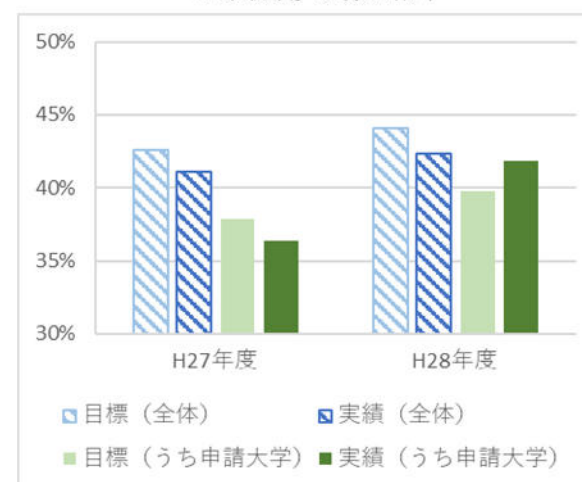
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
事業協働地域就職率	42.11%	42.61%	44.11%	46.11%	49.11%	52.61%
うち申請大学	37.24%	37.84%	39.74%	42.24%	45.94%	50.24%
事業協働機関への インターンシップ参加者数	1230 人	1244 人	1258 人	1272 人	1286 人	1300 人
うち申請大学	60 人	62 人	64 人	66 人	68 人	70 人
事業協働機関からの 寄付講座数	11 講座	13 講座	13 講座	17 講座	17 講座	21 講座
うち申請大学	0 講座	1 講座	1 講座	2 講座	2 講座	3 講座
事業協働機関雇用創出数	一人	3 人	9 人	13 人	19 人	22 人
事業協働機関による 事業への満足度	—%	100%	100%	100%	100%	100%
「地域貢献特定プログラム」 認定者（3年間で履修）	※ 平成 28 年度から本事業の人材育成カリキュラムを 導入するため、認定できるのは平成 30 年度から				80 人	90 人
「ひろしま地域リーダー」 の授与者（4年間で履修）	※ 同上の理由により、授与できるのは平成 31 年度から					30 人
アートプロジェクトへの 市民参加者数	0 人	500 人	2000 人	3000 人	2000 人	2500 人
シンポジウムへの 市民参加者数	0 人	200 人	100 人	100 人	100 人	200 人

■事業目標の平成 28 年度までの進捗状況

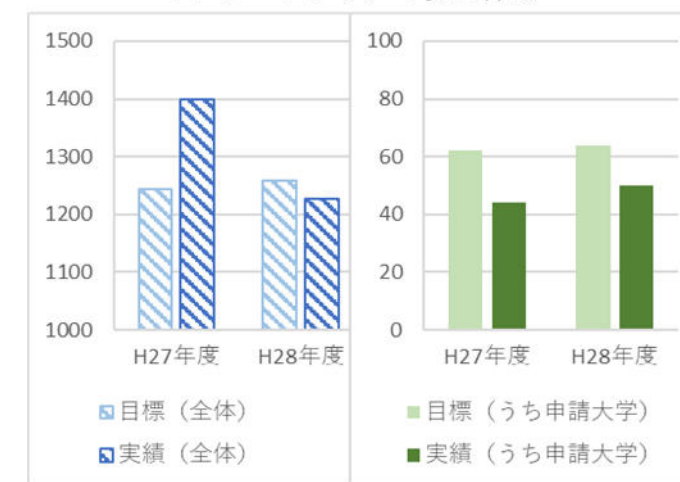
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
事業協働地域就職率	42.11%	41.08%	42.32%
うち申請大学	37.24%	36.34%	41.86%
事業協働機関への インターンシップ参加者数	1230 人	1400 人	1227 人
うち申請大学	60 人	44 人	50 人
事業協働機関からの 寄付講座数	11 講座	8 講座	15 講座
うち申請大学	0 講座	0 講座	0 講座
事業協働機関雇用創出数	一人	一人	一人
事業協働機関による 事業への満足度	—%	—%(*①)	—%(*②)
「地域貢献特定プログラム」 認定者（3年間で履修）	—	—	—
「ひろしま地域リーダー」 の授与者（4年間で履修）	—	—	—
アートプロジェクトへの 市民参加者数	0 人	800 人	2600 人
シンポジウムへの 市民参加者数	0 人	220 人	174 人

※①未調査 ※②平成 29 年 7 月に開催予定の外部評価委員会後に調査する

事業協働地域就職率



インターンシップの参加者数



IV 外部評価委員会の開催（平成27年度事業に対する評価）

「観光振興による地域創生に向けた人材育成事業外部評価委員会」(COC+外部評価委員会)を本学において平成28年7月25日に開催した。

委員は、事業協働機関以外の、教育、調査研究、観光、芸術の各分野の有識者5名で構成し(委員長は神戸市外国語大学船山仲他理事長・学長)、「平成27年度大学改革推進等補助金調書」に記載した事業実施計画に関して評価を行った。

評価結果は、「計画に沿った実績となっている」とされた(5段階評価の中間)。総評において、今後の事業推進にあたっての提言等をいただいた。詳細は「資料-5」を参照。

	職名	氏名(敬称略)
教育関係機関	公立大学法人神戸市外国語大学理事長・学長	(委員長) 船山 仲他
	広島市教育委員会教育委員(弁護士)	藤本 圭子
調査研究機関	公益社団法人中国地方総合研究センター常務理事	石井 浩一
観光関係団体	一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局事務局長	(副委員長) 辻 孝和
芸術関係団体	NPO法人アートプラットホームG理事	木村 成代



評価の記号

B: 計画に沿った実績となっている。

S: 計画を大きく上回った実績を挙げている。
A: 計画を上回った実績を挙げている。
B: 計画に沿った実績となっている。
C: 計画を下回った実績となっている。
D: 計画を大きく下回った実績となっている。

総評の概要

文部科学省に提出している「平成27年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)調書」に記載した事業実施計画に関して評価を行った。

事業初年度の平成27年度は、文部科学省の採択から限られた期間であったが、事業の実施体制を速やかに整えるなど、「教育カリキュラムの整備・推進」、「観光関連データベースの構築と活用」、「観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進」、「事業運営」からなる取組項目の全般については概ね計画に沿って推進され、平成28年度以降の事業運営の基盤は作られたと言える。

平成27年度の取組はこの事業の端緒であり、今後、参加自治体、大学、企業等が協働していかに有機的に事業が展開されるか、学生の地域への関心や意識をいかに高めるかが、COC+事業の理念の実現にとって重要と考える。このため、今後の取組にあたっては、以下の点に特に留意して推進することが望まれる。

- 1 実績については、表面的な数字などの結果だけでなく、事業の目的に照らして成果がどのように得られたかについても考慮すること。
- 2 常にPDCAサイクルを念頭に置き、その運用によって取組に対する改善の努力を行うこと。
- 3 事業を取り巻く状況等の変化に対応して、適宜適切な計画変更を行うなど、柔軟な事業運営に努めること。
- 4 地域を巻き込んでCOC+事業を効果的に推進するために、関係者の情報共有や広報について、その重要性を認識し積極的に展開すること。